道路ユーザーネットワーク広場

NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK

☆三好礼子の☆ ナチュラル・ロード

大好きな春！毎日ウキウキですね。

三好礼子
エッセイスト・元国際ラリースト
～http://www.fairytale.jp/～

「メルカリで買っちゃった」という乗り物を車に積んで、京都から友人がやってきました。降ろしてビックリ。なんとそれは、ホンダのシニアカーでした。

「そんなものまで買えるのね」ということに驚きましたが、60歳後半の彼が購入したことで、その日がそれほど遠くないことに改めて気付かされ、ががーん。最近膝関節症と坐骨神経痛を患った森田さんですが、杖をつくより断然楽なのだそうです。皆勤賞でカフェにいらっしゃるご近所の小林さんは股関節症ですが、高齢になったからという選択肢だけではないのですよね。骨折での車椅子体験はあるけれど、電動での外出経験はなかった私は、興味津々。すぐに試乗させてもらいました。

そして、またもやビックリ。ブレーキはなく手元のアクセルを離せばブレーキだったとは（シンプル）。最高時速の6キロに達しなくても十分速く、軽く快適なその乗り心地はビジネスクラス並み。景色や街の見え方はバイクかなと思っていたけれど、歩行者扱いでヘルメットがないせいか開放感があり、こちらはファーストクラスな爽快さ。居合わせて試乗させてもらったライダーたちの誰もが、その新鮮な感覚に打ちのめされました。「やばいよ、これ。楽しすぎ（リッターバイクの旅人Y氏）」「知らない世界だあ～（自転車フリークのM氏）」。バイクに初めて乗った時のような衝撃に近いのですが、自転車とも二輪車ともカーゴカーとも違います。道がもっと近く、町がクリアに見えるのです。荷物も載るし、椅子も回転して、とにかく楽ちん。しかも丈夫。こんなものを作ってしまう日本って本当に凄い。

以前住んでいた朝霧高原は、あまりに広大すぎて航続距離が約10キロというシニアカーを見ることはありませんでしたが、ここはお隣との距離が近いので、頻繁にご近所さんを見かけます。うちのカフェのお隣に住む85歳のキミちゃんは2台の愛車を持ち、畑に田んぼに買い出しにと、その勇姿を見ない日はありません。以前、コンビニの裏道の急坂を何気に下っていたのですが、そこはトライアル経験者の私でも躊躇する魔の法面（落差2メートル）。何事もなかったように走り去る姿に「人生の師匠」を感じました。ほとんどの方が旦那様に逝かれ、子供達が一人残っている（あるいは通い）ものの、昼間は一人。しかし畑は全部一人でこなし、毎日太陽の下。歯はなくとも、話は楽しく饒舌。頭もシャキーン！　もちろん頻繁に寿命を全うされたお年寄りの話を聞きますが、「3日前に買い出し行ってた」「前の日に畑仕事していた」というピンピンコロリが多く、それにも感動させられます。田舎や都会に関係なく、今やそれは大臣賞ものではないでしょうか。

とにかく地域の高齢者たちは、このコミュニケーションツールでもあるシニアカーに支えられているのは明白。保険や事故の報告も多く、問題点は多々論議されていますが、ここ長野県松本市の長閑な四賀地区に限っていえば、一般車はシニアカーの存在を何より大事にしており、認知の上に成り立っているようです。今後はもっと台数が増えるとは思いますが、シニアカーの能力（たとえばスタッドレスへの交換可能）とか、航続距離の選択肢とか、GPSシステム内臓とか、目立つようなフラッグ？装着とか、いろいろあったら楽しそう。今、未来への可能性は私の中では一番オシなので、よりよいものに育っていって欲しいです。

カフェに来るライダーさん、あのお婆ちゃまたちのニッコニコの笑顔と爽快な走りを見ると、みなさん唖然。そして呟きます。「先輩たち、カッコいいですね」「僕たちの未来は明るいなあ！」。エネルギーは笑顔とアウトドアから。シニアカーが走れる環境づくり＆道づくり、みなさんよろしくお願い致します♪

「日本ソロツーリングクラブ」代表の森田さん。大型バイクも乗るがこれもチョイス。

カフェ看板の担当の森田さん。新作は「花畑のウランちゃん」。癒されます。

使用歴10年の小林さんは、雪でもへっちゃらの行動派。「コレなかったら大変よ」。

笑い声炸裂。目向での井戸端会議は、お隣のキミちゃんと和子さん。

シーズン到来！春とともにどどっとやってくるライダー達。

今年90歳になる和子さん。家と畑を行ったり来たりと、超元気！

九州の散歩道
新緑の季節に楽しむ「水辺の散策」

フリージャーナリスト　湯浅玲子

青空と緑が気持ちのいいシーズンは、水辺を歩くのも楽しくなります。例えばマイナスイオンたっぷりの滝など、これからの季節の散策にはぴったりです。

熊本県の最北端にある小国町は、山々に囲まれ、町域の8割が山林という緑豊かな地域。ここには日本でも有数の「裏見の滝」があります。裏見の滝とは、滝壺の奥まで行くことができ、滝の裏側から流れ落ちる水を見ることができる滝のこと。小国町にある鍋ヶ滝は、規模こそ大きくはありませんが、滝裏の空間が広く、「裏見の滝」の代表例として知られています。

実は、以前の鍋ヶ滝は知る人ぞ知るスポットでした。それが全国的に脚光を浴びるようになったのは、ある飲料水のCMがきっかけ。広い川幅を優美に流れる姿は写真や映像に撮っても美しく、今でいう「インスタ映え」というやつでしょうか、全国から人が集まる人気スポットになりました。とりわけ新緑の頃が美しいといわれています。

鍋ヶ滝は季節によってだけでなく、滝の表と裏、さらに朝・昼・夜と表情を変えるのも魅力のひとつ。春先やゴールデンウィークには、期間限定で滝の裏側からライトアップするイベントを開催しており、光に照らされた幻想的な姿を見ることができます。人気スポットになっても、できるだけ周囲の環境を壊さないように配慮され、滝までの遊歩道は地元の有志が整備したものです。

この時期、小国町でもうひとつの風物詩が杖立（つえたて）温泉の「鯉のぼり祭り」。この温泉は杖立川の両側に旅館や温泉宿が立ち並ぶ渓谷の温泉街で、一部は大分県にもまたがっています。伝説によると約1800年の歴史があるとされ、杖立という名前は、杖の助けを借りて湯治にやってきた人が、帰るときには杖なしで帰れるという逸話からきているそうです。

この杖立温泉で約40年前から始まった「鯉のぼり祭り」は、川をまたいで数千匹の鯉のぼりが群れをなすように泳ぐ姿が圧巻。こちらも全国から観光客が訪れる人気ぶりで、やはり絵になるスポットです。

現在では川に鯉のぼりを泳がせるイベントは全国各地で行われていますが、もともとは杖立温泉が発祥地といわれています。その杖立でも、最初は数軒の温泉宿で40匹程度を泳がせているだけだったそうです。それが次第に評判を呼び、あちこちから鯉のぼりが寄贈されるようになります。これまで寄贈された鯉のぼりは数万匹にのぼるとか。小さなアイデアが地域の魅力をつくった良い例だと思います。

（写真提供：九州旅ネット）

鮮やかな新緑と木漏れ日が美しい鍋ヶ滝

5月上旬にかけて鯉のぼりが泳ぐ杖立温泉

ハッと思いました

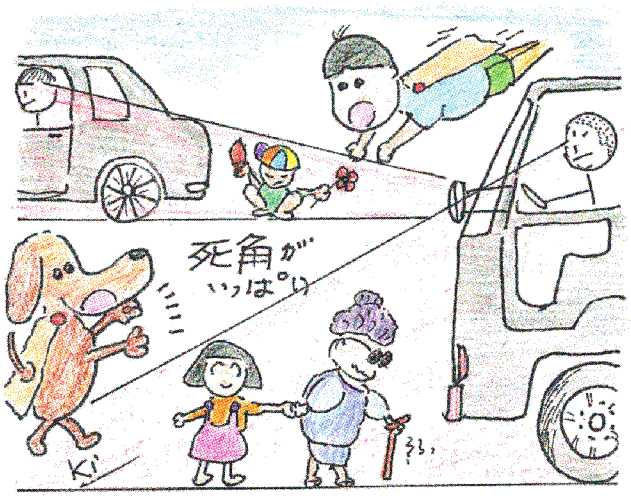
毎年4月になると、今年こそは子供たちに非情な事故がふりかからない様にと心から願っています。

どうか、どうかドライバーの皆さん、身勝手な運転をしないよう、思い込みで運単しないよう、むしろ凶器に乗って危険な状況を作っているんだくらいの気持ちを持って、運転に取り組んでください。

クルマはどんなに古いものでも、どんなに最先端のものでも、単なる機械です。道具です。勿論、クルマのみならず、バイクも、自転車も同じです。

昨今話題の、煽り、走行妨害、逆走、対向車線はみだし、信号無視、違法駐車などなど、これまで何度となく指摘してきましたが、全てはドライバー・人が起因するものです。それを理解して、どのようにするべきか、何をしていけないのかが実行できるドライバーになれば、事故は限りなくゼロになるものと信じています。

4月、春は穏やかで、ポカポカほんわかとして、身も心も和み「陽」の時期です。ざっくりと剪定されていた木々を淡い色をした小枝が覆い、その枝先が柔らかくふっくらとしてきます。コブシ、モクレン、ミモザ、ハナミズキ、そして、お待ちかねのサクラが、ソメイヨシノ、シダレザクラ、ヤエザクラと一気に咲き誇ります。足元にはチューリップ、タンポポ、菜の花、ツツジ、名も知らないけど、毎年目にする小さな花が咲いています。

そんな風に4月は陽気で幸せな時です。悲しみや悔しさ、憎しみなどは似合いません。一人のドライバーとしてやるべき事、できる事を実行して、交通事故ゼロを実現したいです。

兎に角、謙虚に注意深く、穏やかにやさしく…。